

陽はまた昇る



テストは「お宝」

終わったことは反省材料を点検するだけ。明日からのことを考えるのが、今はいちばん重要なことです。
坂本金八／3年B組担任

返ってきたテストを「お宝」にする！

学習担当の1組担任です。学習について、皆さんにお伝えしたくて学年だより「初」寄稿(˘ω˘)初めての定期テストを終え、続々とテストが返されました。テスト前は「10日間で40時間以上学習」を目標と伝えてきました。40時間を超えた人は学年で30人以上！全員とはいきませんでしたが、おそらく、これまでの人生で一番勉強した10日間になったのではないのでしょうか。でも、テストはここからが大事!!返ってきたテストを、さらに自分の力をのばす「お宝」にしましょう!!

■ テストが返ってきたら、どうする？

- ・ 論外な人のパターン → 何点とれたかだけを気にする人(点数にのみ興味を示す人)
- ・ 1番ダメなパターン → 何が正解だったのかを見るだけの人
- ・ 次にダメなパターン → 自分の書いた答えが合っているかをチェックするだけの人
- ・ めちゃくちゃ力がつくパターン = **テストを「お宝」にすることができる人**
⇒できたところではなく、わからないところをどう解けばよいのかをチェックする人

つまり…「お宝」にするには「直し」が超重要!ということです。では、どんなふうに直せばいいのでしょうか？

- ・ 1番ダメなパターン → 答案用紙に正解を書き写すだけの人
- ・ 次にダメなパターン → 解説を読んで(聞いて)答えを書き写す(暗記する)人
- ・ 少し効果があるパターン → 間違えた問題を改めて解き直しをする人
- ・ めちゃくちゃ力がつくパターン = **テストを「お宝」にすることができる人**

ステップ1 「間違えた・出来なかった問題の原因を分析する」

答案用紙の間違えた問題に「全く分からない」=黄色／「見たことがあるができない」=水色／「うっかりミス」=ピンクのように3色にわけ、マーカーでラインを引く

ステップ2 「教訓を自分の言葉にする」

同じ間違いを繰り返さないために、何に気をつけるのかを書き出す

例:「うっかりミス」→どのようなうっかりミスだったのかを答案用紙に赤で書く

例:「見たことがあるができない」「全く分からない」場合

→解説(先生の説明・教科書)などからチェックし、問題を解くカギとなる言葉を書き出す。

ステップ3 「足りない部分をなくす(分かったつもり・勉強したつもりにならない)

- ・ ケアレスミス対策→すぐに、繰り返し学習する
- ・ 見たことがあるができない、全く分からない場合の対策は→人に説明する、説明するように話す

ステップ4 「自分の力で解き直しをする」

同じ問題や同じような問題を、何も見ないでもできるようにする。

この方法でぜひ取り組んでみよう!!

(第1学年 学習担当)

■ ご意見・ご感想を
お待ちしております。

右 QR コード(アドレス)から、
ご記入いただくと幸いです。

<https://forms.office.com/r/fG1HabjJDE>

